

## 第六四回 大阪府立高津高等学校 卒業証書授与式式辞

本日ここに、大阪府立高津高等学校、第六四回卒業証書授与式を挙行致しましたところ、公私とも何かとご多用にもかかわりませず、

大阪府教育委員会事務局 高岡 真仁様はじめ、多数のご来賓のご臨席を賜りましたこと、壇上からではございますが、厚く御礼申しあげます。

本日、ご参加いただいております、保護者の皆様、めでたくお子様の卒業をお迎えになりましたこと、お喜びもひとしおかと存じます。心からお祝い申しあげます。また、入学以来、本校教育活動の振興に寄せられました、ご理解、ご支援に対しまして、この場をお借りして、厚く御礼申しあげます。

さて、ただ今、栄えある卒業証書を授与された、高津高等学校、第六四期生、三五二名の皆さん、卒業おめでとうございます。本校での厳しい学習や、特色ある学校行事、部活動などに取り組みつつ、嬉しかったことや辛かったことなど、さまざまなことを乗り越え、今日という日を迎えた、皆さんの努力に心から拍手を送ります。

皆さんが入学した、平成二一年四月は、私が本校に着任した時でもあります。皆さんと同様、この三年間のできごとが鮮明に蘇ってきます。皆さんは、本校創立以来の「自由と創造」「日新日進」の校風・校是のもと、家族の方々や、PTA、同窓会、地域の方々などから、多方面にわたる支援をいただきながら、また、性別や個性、国籍、障がいの有無などの違いを超えて、むしろ、それらの違いを多様性として包み込みながら、一人ひとりが自分の色を輝かせてくれました。入学間もない四月下旬に、吉野山で実施した学習合宿を思い起こしますと、随分成長してくれたと、感慨深いものがあります。

三年生になったばかりの昨年四月、クラスごとに校長室に来てもら

い、卒業後の進む道はそれぞれ違っても、高津で学んだことに誇りを持ち、顔を上げ、胸を張って卒業してほしい、とお願いしました。きっと、今、そのような気持ちで、卒業式に臨んでくれていると思います。それでは、皆さんに直接伝える最後の機会に、皆さんがこれからの長い人生を歩んでいくことをふまえ、是非とも心に刻んでおいてほしいことを、三点お話しします。

一点目は、「科学する心」です。

社会においては、いつも一つの正解があるのではなく、複数の答えがあったり、その時点では答えが見つからないことが度々あります。そのようなとき、テストの点数・偏差値を得るための知識やテクニック、正解を求めて受け身でいる姿勢は通用しません。また、人間には、他者からの評価を気にしたり、世間の風評に流されたり、一時の感情などにより、判断を誤ったり、自らの言動が揺れる、という落とし穴があります。若い皆さんには、「科学する心」を持って、真理を追求してほしいと願っています。すなわち、「現状を客観的に把握する→それを分析し課題を認識する→仮説を立てる→実験・調査する→議論・検証する」という、思考プロセスです。

そして、自分自身を見失うほどの逆境にあっても、この上ない幸福感に包まれていても、「YES」「NO」の区別をしっかりとつけ、「YES」「NO」をきちんと発する人間になってほしい、と思います。

次に、二点目は、「命と平和の大切さ」です。

昨年三月十一日、東日本大震災が生起し、甚大な数の尊い命が失われました。とりわけ、多くの小・中学生や高校生が犠牲になったことは、教育に携わる者として、心が痛みます。

また、「若さ」という特権を有しながら、自らを傷つけたり、他者を攻撃したりするニュースを見聞すると、誠に残念な気持ちになります。

皆さんには、「生かされている」というチャンスを生かし、限りある命を大切にしてほしいと願っています。

さらに、一つ一つの命は他の多くの命とつながり、支えられています。支え合う究極の姿は平和であり、平和であればこそ、学ぶことも仕事も、趣味に興ずることも、恋愛することも、自由に発言・行動することも・・・、すべて可能となります。

自分の命をどのように生きるのか、そして、他者の命をどのように尊重するのか、命への畏敬の念を抱き、自他の命を大切にし、平和のうちに生きることを願って止みません。

最後に三点目です。亀井勝一郎さんの「邂逅し、開眼し、瞑目す」という言葉を贈ります。この言葉は、これまで、卒業する生徒に必ず贈ってきた言葉です。私は、東京の大学へ入学後、親元から遠く離れ、一人で下宿生活を始めました。当初は不安でしたが、生まれ育った大阪とは違う文化に刺激を受けたり、自分の興味ある授業を選択し好きな本を読み、映画や旅行に行き、クラブの友だちと愉快地騒ぐなど、高校時代とはまた異なる青春を謳歌していました。そのような時に、ふと思いました。

「自分はどんな人間なのか、友人たちと楽しく過ごしているが親友と呼べる人間はいるのか。逆に、友人にとって自分は親友と呼べる人間なのか。このまま大学で学んでどうなるのか。社会に出て一人の人間として役に立つのか・・・」などと、思い悩んでいるときに、この言葉に出会いました。

意味するところは、「人は、他人やモノ、自然などに出会って（邂逅）、それまでの疑問や悩みの解決へのヒントを得ます（開眼）。しかし、結局はそこにとどまらず、また新たな課題に直面し、再び考え出す（瞑目）」、これを繰り返す、ということです。

この言葉から問題の直接の解決は得られませんでした。が、気持ちの在り様を学びました。「邂逅し、開眼し、瞑目す」ことを繰り返しながら、今より先へ、今より高みへ進んでいってください。

以上、「科学する心」「命と平和の大切さ」「邂逅し、開眼し、瞑目すること」三点についてお話ししました。

卒業生の皆さん、今日、日本だけではなく、世界中の国や地域において、政治的・経済的混乱をはじめ、従来の価値観では対応できない不安定さが見受けられます。加えて、不寛容、不合理、不条理、差別や貧困などが渦巻いています。おそらく、ご両親や先生たちが経験したことのない、あらゆる分野での激しい変化や、先を見通すことが難しい時代を迎えています。

このような状況にあっても、ぜひ、皆さんには、旧制高津中学校から数えて通算八九期生、高津高校六四期生として、本校で過ごした三年間を心の糧とし、日々気持ちを新たに、自らの人格を鍛え、正々堂々と自己実現をめざしてほしいと願っています。

同時に、本校卒業生の使命として、あらゆる分野において、他人の心の痛みを受け止めつつ、課題の解決に臨み、最後まで逃げずに責任を果たす、真のリーダーになってほしいと願っています。

先ほどお話しした、東日本大震災直後、皆さんの中から、「自分たちにできることをしよう！」と、学校全体に呼びかけ、自主的・主体的に募金活動や文房具を送る活動に取り組んでくれました。大いに頼もしく感じています。これからも、常に社会に関心を持ち続け、社会に飛び出し、人の輪を広げていってください。

遠い将来、皆さんが、自分の人生を振り返ったとき、「他人の人生と取り替えたいとは思わない人生だった」と言えることを確信しています。

終わりに当たり、ご来賓、保護者の皆様方には、これまでの本校に対

する、ご理解、ご協力に、改めて感謝申し上げますとともに、従前にもまして、高津高校への絶大なるご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、卒業生の皆さん、健康にはくれぐれも留意し、自らの目標に向かって精進され、その努力が花を咲かせ、実を結ぶことを、心から念願して、卒業式の式辞とします。

平成二十四年三月二日

大阪府立高津高等学校長 尾上良宏